

# 都中英研だより

第 54 号

東京都中学校英語教育研究会  
会 長 備里川 正人  
(足立区立第十四中学校長)

## 全英連中学校部会 平田和人先生の講演会の報告

7月26日にオリンピック記念青少年センターで開催された全英連中学校部会で文部科学省視学官平田和人先生をお招きして「英語教育の課題とこれから」というテーマでご講演をいただきました。今年度末の新学習指導要領告示に向けて現在議論を重ねているとのこと。また、新教育課程の審議状況について、教育課程部会及び外国語専門部会での議論を中心に英語教育の課題ということで次のようなお話をいただきました。

### ○「外国語科の現状と課題、改善の方向性（検討素案）」について

- ・発信力の育成が重要であると指摘されている。
- ・英語は他教科と比べて役立つと考える生徒が多い。
- ・中学校で語彙や文構造が十分には身につけておらず、中学校での基礎固めが求められる。
- ・中・高のギャップも大きいと、ブリッジ科目をもうけるなどの措置も考えられている。
- ・特に高等学校ではコンテンツを重視した指導が求められている。

### ○「文法指導のあり方について（検討資料）」について

- ・コミュニケーションの流れの中ではタブー視されることもあった文法であるが、言語運用を前提にし文法と言うことで扱っていくことは重要である。
- ・文や文型に加えて句、節、文章の概念も入れてはどうかという意見も出ている。
- ・文構造的には中学校では扱わないものを慣用表現として指導することもありえるのではないかと。

### ○「言語力の育成に関する主な意見について（議論の整理用メモ）」について

- ・PISA型読解力が弱いという課題から言語力は国語（日本語）として議論された。
- ・言語力の観点からは、小学校英語では外国語としてのスキルを身につけるだけでなく、広く言語と文化への考え方を指導していくことが重要である。

### ○「特定の課題に関する調査結果」（平成17年度実施「話すことに関する調査」から）

- ・単語レベルでは良好である。



- ・文レベルでは文構造が理解できていない。
- ・定型表現を用いた応答については身につけている。意味を考え正確に伝える練習が必要である。
- ・ライティングでは無回答が30%程度であるのに対して、スピーキングでは無発言は11.8%であり、何らかの発言はしようとしている。
- ・文法や語彙の定着をはかることも大切である。

### ○小・中・高の一貫した指導について 各学校段階の特質をどうとらえて指導していくかが課題である。

小…発達段階や外国語習得の段階をふまえて指導していくこと

中…到達目標の明確化

- ・中学校段階でどこまで達成させるかを明確にする（特に言語活動）。
- ・文構造の定着、語彙の充実、他教科の指導内容と乖離しないレベルの内容（コンテンツ）での言語教育が必要である。

高…中学校の学習とのギャップが課題

- ・コンテンツを重視した指導と発信力の育成が指摘されている。

### ○言語意識・感性

- ・言語運用能力を身につけさせることは大切であるが、コミュニケーションと言う時に、「この様な時は、こう言えばよい。覚えましょう。」とか「伝わればよい」などの若干荒っぽいとらえ方も見受けられる。このようなことがあまり前面に出過ぎると、言語意識を高める指導、言葉への感覚、豊かさなど、言語を丁寧に扱う指導につながらない。

# 小平市の取り組み

教科等研究会英語部長（小平第四中学校長） 西 正 弘

小平市には市立中学校が8校あります。16年度新たに教科等研究会が発足し、以降、組織（運営委員・研究授業・研修など）の活性化と内容の充実を図っています。18年度から市教委主催の悉皆研修も加わり、研修内容が一段と充実してきました。

英語教師は現在管理職も含めて26名、年々活気が出てきています。

今まで、「個に応じた指導の展開」「実践的コミュニケーション能力の向上」をテーマにした研修、また、英語教師の英語運用能力の向上を視野に入れた研修も行っています。ALTとのTT授業については、ETT推進委員会という市教委主催の委員会があり、その活用について情報交換をしています。

また、市内の小学校においても英語活動の取り組みがどの小学校でも展開され、特に津田塾大学の協力を得ながら英語劇に取り組んだりしている小学校もあります。

以下取り組みを紹介します。

## 1 教科等研究会

年度の組織作りと活動計画の確認を5月に行い、年数回の研修の機会を設定しています。

夏季休業中の午後に3回の研修を組んでいます。どれもワークショップ形式の研修で、年々参加者が増えてきています。

評価評定、指導法、英語力、問題作成（考査など）についての研修を進めてきていますが、これからも先生方のニーズを考慮し、研修を進めていきます。

## 2 教科等研究会 研究授業

毎年9月に市内中学校で一斉に各教科で研究授業を行います。研究テーマに沿った授業に合わせ、子どもの変容も考慮した授業研究にしています。英語部では、輪番制をとり、今年度は、小平第一中学校の稲葉やす子教諭が授業を行いました。

英語を多用し、音声中心の導入、展開と進めた参加者からとても好評を得る、模範的な授業でした。生徒達は先生の英語に集中し、英語の音で内容を把握する。それから自らの口から英語を発する、さらにペアで発信練習をしていくという、うまく段階を踏ませながらの授業でした。構文の説明は、最小限に抑えた授業でもありました。



## 3 グループ研究

17年度はWritingについてグループ研究を行い、市内小中学校LANに乗せています。18年度「KODAIRA」という英語の副教材作りを行い、今年度も増版を進めています。小平のことを英語で「知る・表現する」ことをねらいとした、3年生対象の副読本です。

選択授業で活用をねらっていますが、将来は、市内の中学3年生全員に配り、生徒達が身近な小平のことが英語で言えるよう支援するものにしていきたいと思っています。

Chapter 7 - The Most Famous Place in Kodaira  
The Hirakushi Denchu Art Museum



Hirakushi Denchu is a famous Japanese sculptor. He worked until he was 108 years old. Before he died in 1979, he lived in Kodaira and made several sculptures. His house became an art museum in 1984. There are a lot of visitors there all the year around. After looking at the sculptures, they can also enjoy the flowers in his Japanese garden.

We are very proud of this art museum. It takes five minutes' walk from Hitotsubashi Gakuen station.



～Words～

sculptor 彫刻家      until ～      ～まで  
 several いくつかの      museum 博物館  
 sculpture 彫刻      visitor 訪問者  
 all the year around 一年中  
 Japanese garden 日本庭園

【平櫛田中の作品】



平櫛田中の代表作、「鏡獅子」  
 (高さ2メートル)

現在は、国立近代美術館が所蔵しており、国立劇場に永久貸与しています。

鏡獅子

Q & A

I 英語で答えよう。

- 1 Did you go to the Hirakushi Denchu Art Museum?
- 2 Who was Hirakushi Denchu?
- 3 How long did he live?
- 4 When did his house become an art museum?
- 5 What can you see at the art museum?

4 通信 Kogera Times

小平の英語部の活動のお知らせや記録などを KOGERA TIMES という通信にして各中学校の校長および英語科教師、小学校長と総合的な学習の時間担当者に配布しています。

## 平成19年度 英語教員集中研修について

東京都教職員研修センター 研修部授業力向上課 高橋美香

英語教員集中研修は、東京都の公立中学校、高等学校、特別支援学校等において、外国語（英語）を指導する教員を対象に、平成15年度から5ヵ年をかけて実施されてきた。最終年度である平成19年度は、約830名の参加があった。

本研修は、文部科学省の「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想—英語力・国語力増進プラン」に基づき、英語教員の英語運用能力及び英語指導技術等の向上を通して、生徒の実践的コミュニケーション能力を高め、授業改善を図ることを目的としている。内容は、リスニングやリーディング、ライティング、ディスカッションやマイクロティーチング（模擬授業）などの演習が中心で、外国人講師によって、すべて英語で進められる。

研修初日には、少々遠慮がちに英語で話していた教員も、3日目、4日目となると、雑談も英語でするほど、自然に英語を話しているようだった。研修の中では、授業で使える様々な工夫やアイデアの交流を図っていた。寄せられた感想の一つを紹介したい。

.....

今回は、とても有意義な研修を受講することができた。課題は作り込まれているものが多く、解決のために、意見を交換するなど共同で取り組まなければならないように設定されていた。講師は、受講者が理解できるように丁寧に言葉を選び、表現を変えながら二度三度と繰り返し課題への取組方法を指示していた。こうしたことから多くの受講者が、何をすべきかをほぼ理解して主体的に課題に取り組んでいた。また、講師は、課題をやり遂げた受講者を評価し、褒める姿勢を崩さずに研修を進行し、明るい雰囲気を作り出していた。こうしたことから受講者は、主体的に楽しみながら課題解決の活動等を積極的に行い、有意義なものと感じていたようである。

マイクロティーチングも他の受講者の授業実践をうかがい知ることができた。短時間とはいえ、一度にこれだけ多くの方の授業実践に触れる機会をもったことはなく、授業を実践していく上での様々な方法、考え方、生徒とのやり取り、授業内での約束事などを知ることができたのは貴重な体験であった。  
 (中学校教諭)

.....

本研修での学びがそれぞれの現場で生徒に還元されること、そして真の意味で「英語が使える日本人」が育成されることを期待している。

## 第9回 サマーワークショップ (事業部主催)

今年度のサマーワークショップは、8月16日(木)に、文京区立茗台中学校で行われた。当初は、文京区立第一中学校で行う予定であったが、参加希望者が多かったため会場を変更した。当日は、68名の参加者があり、盛況だった。

今年度の講師は、昨年度から始まった教師道場の第1期生の先生方と、助言者の先生にお願いした。以下の3名の先生方である。

- 品川区立城南小学校 山田 仁 教諭
- 福生市立福生第二中学校 田中清美 教諭
- 府中市立府中第二中学校 田口 徹 教諭

山田教諭は、教師道場の第1期生の中で、唯一の小学校の先生である。「小学校の英語授業で、今行われていること」というテーマで、品川区の英語科のカリキュラムや、授業の基本方針について、実践例を交えて話して下さった。「読ませず、書かせず、訳させず」という、耳と口をたくさん使わせて、英語が話せるようにする基本方針は、それを中学校でどのように生かしていくか考えさせられた。

田中教諭は、「教師道場で学んだこと、何が授業で変わったか?」というテーマで、具体的な目標に向けて「今、何をすべきか」を考えていくことの大切さや、「何のため」にこの活動をするの

かを常に意識していることについて話して下さった。「スパイラルな指導の工夫」として、既習の基本文を、日本語を見て英語で言い、その文を書く活動や、英語の質問に英語で答え、書く活動について、実践例を使って説明があった。

田口教諭は、「生徒が力をつける授業作りの基礎・基本」というテーマで、授業のデザインについて話して下さった。今年2月に行われた中英研研究部公開授業のビデオを使って、それぞれの場面のねらいやポイントを参加者に確認しながら、授業作りについての留意点を説明して下さった。リズム感のある授業とは、どのような授業なのか? リズム感のある授業を支えるものは何か? など、普段の授業を作っていく上で大切な事柄を学ぶことができた。特に「時間をかけて周到にしこみ」をするという点は、教材研究にかける時間がとまれば少なくなりがちな教員にとって、とても参考になった。

いずれも実践に基づいた具体的な発表であったので、すぐに自分の授業に生かせるヒントがたくさんあった。残念ながら、今年度参加をお断りした先生方や、都合で参加できなかった先生方は、来年度ぜひ参加していただきたい。

多摩市立和田中学校 教諭 横山達也

### ～・～お知らせ～・～

#### ー中英研関連出版物のご紹介ー

『コミュニケーション・テストへの挑戦』

根岸雅史、東京都中学校英語教育研究会 編著 (三省堂 2007年4月10日発行)

『中学生の楽しい英語劇—Let's Enjoy Some Plays』

東京都中学校英語教育研究会 編著 (秀文館 2004年6月発行)

#### ー中英研ホームページー

中英研の動向、情報、をお知らせいたします。ぜひ、下記URLにアクセスしてください。「中英研だより」もいち早くご覧いただけます。

<http://www.chueiken-tokyo.org>

本号『各地区英語研究会の紹介』でご紹介しました通り、都内の各地区では、地道でありながら、とても熱心に、有意義な研究活動を展開している地区がたくさんあります。そのような実践的な取組をご紹介することが、「明日の授業にすぐに役立つ」工夫になると信じます。どうぞお気軽に、出版部までご紹介ください。

ご連絡先：西東京市立田無第四中学校 池田 武 男 (中英研出版部長)

TEL: 042-465-6113 FAX: 042-469-2181 Mail: j-tanas4@nishitokyo.ed.jp